

## 福島県 会津坂下町商工会青年部 プロの技を家庭に伝授 公開講座「青年部だいがく」を開催

会津坂下(あいづばんげ)町商工会青年部が昨年の秋から取り組んでいる「青年部だいがく」が好評だ。地元の商店・事業所の魅力を住民に広く理解してもらおうと、青年部員が交代で毎回の講師を務め、それぞれの職種に関係したテーマで一般公開講座を開催、日ごろ培った技術や知識を住民に披露している。

受講者は主婦らが中心だが、申込みが殺到し、2回に分けて開いた回もある。いずれも、プロならではの詳しい専門的な指導が好評を得てきた。

これまでの6回の講座で取り上げたテーマは、料理店の料理人による「季節の会席料理」「みそ料理」、鮮魚店員の「鮮魚の見分け方」、みそ店員の「自家製みそ作り」、ホビーショップ店長の「ミシンの使い方」、酒販売店員の「日本酒の楽しみ方」、ファミリーレストラン店長の「手作りソーセージ」など。

毎回、テーマ選び、受講者募集、下準備まで、すべて部員が協力し、手作りで運営している。部員は互いの職種について理解を深めることができ、また、講師担当の部員は講義内容を勉強し直したり、あらためて自らの職種と向き合うことで、能力アップや意欲向上にもつながり、講師の店・事業所にとっては、講座は格好のPRの場になる。

受講者は講座を通して、身近にある店や事業所が長年培ってきたプロの技を実感したり、店員らとの人間関係も生まれるため、受講をきっかけに、来店するようになったケースもある。

大規模店の進出などで中心商店街などの苦戦が続いているが、地元店は大規模店にはない持ち味を強くアピールしていく必要があり、今回の取り組みは身近なプロとして、地元店が生き残りを図るためのヒントになりそうだ。



## 熊本県 菊水町商工会青年部 古墳祭を“熱演”でPR 観光キャラバン隊が寸劇

菊水(きくすい)町商工会青年部(菊川俊二部長)の観光キャラバン隊が7月、町内外の幼児施設など19カ所を訪問し、寸劇で8月1日～2日に開催された「古墳祭」のPRを行った。

当青年部は6年前から毎年七夕前に子供たちに短冊を配っていたが、今年から「よりわかりやすく祭りをPRしよう」と、卑弥呼が悪い古代人を改心させ、みんなで「古墳祭」の成功を願うというストーリーの寸劇を取り入れた。

訪問先の1つ、菊水ひまわり幼稚園(菅原秀一園長)では、今年の祭りのヒロイン卑弥呼を務める会社員山崎香織さんらが、古代衣装で寸劇を披露し、汗をかきながらの“熱演”に子供たちは大喜びだった。

古墳祭は、Kiroroの野外ライブ、メイン行事の町民1,000人による松明(たいまつ)行列などでにぎわった。



## 滋賀県 水口町商工会 プロの腕と汗キラリ 小中学校や保育園などの施設で奉仕

水口町(みなくち)商工会建設業部会(野田卓治部会長)は8月21日、町内の公共施設で修繕奉仕した。学校や保育園など教育施設の傷んだ箇所を修理するボランティアで、毎年夏休みに行っている。

大工さんや水道・電気工事業者ら52名は、事前に下見した小中学校や保育園など16施設での作業に汗を流した。伴谷小では、屋根の防水工事や運動場の破れた金網フェンスの補修などを行った。同小の今井教頭は「毎年傷んだ箇所を修理してもらい、とても感謝しています」と喜んでた。



破れた金網を補修する  
商工会建設業部会

## 大分県 朝地町、大野町、清川村商工会女性部 エコマネーを活用しよう 3商工会女性部がスクラム

朝地(あさじ)町、大野(おおの)町、清川(きよかわ)村の各商工会女性部は、地域通貨の一種・エコマネーの試験的な運用を始めた(9月～11月下旬)。12月以降は流通度などを分析し、継続の可能性を探る。

住む人に優しいまちづくりを目指し、県女性部連合会が平成14年度までエコマネーを研究し、ブロックごとに奨励してきたが、自治体の枠を超えて行われるのは初めて。「きらきら通貨KOA(コア)」という名称は、「いつまでも輝いていた」という女性の願いと大

野川の清流から「きらきら」を、「KOA」は各町村の頭文字をとり、「地域を支える核(コア)になろう」との思いも込めている。

1,000コア、500コアの2種類あり、1コアを1円として扱い、30分のサービスは500コア。3町村で部員に参加を募り、コアを割り当て、対応できる店や部員のサービスを小冊子にまとめて一般にも周知し、宣伝用のステッカー、のぼりも製作する。地域を巻きこんだ事業やふるさと祭りでの女性部の売店などでも利用できるようにするなど活動を広げ、取り組んでいく。

推進委員長を務める秋田別府大学教授は「日常の助け合い活動や、地域経済の活性化に役立ててほしい。他町村の行事を手伝いたいとの声もあり、遊び心を忘れずに取り組むことが大切」と話した。



エコマネー流通開始式

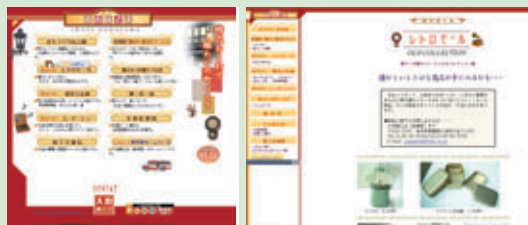
# スクランブル

## 岩手県 大迫商工会 懐古商品、ネットで復活 ドカベン、灯油ランプから金だらいまで…

大迫(おおはさま)商工会(平沢純孝会長)のホームページ(HP)に開設している「レトロモール」は、昨年7月のオープン以来静かなブームを呼んでいる。今では見かけない「時代遅れグッズ」が並び、「1周遅れのトップランナー」を掲げる商店街の活性化にも一役買う。

大迫商工会は1999年に「時代遅れでにぎわいの街づくり」をテーマにした中心商店街ビジョンを策定。これに合わせて、2001年からHPをレトロ調に全面更新し、昨年7月からはネット上の仮想商店街の運営に乗り出した。

一番人気はアルマイトの弁当箱(1,500円〜)だ。「ドカベン」の愛称で知られる弁当箱だが、近年ではほとんど販売されなくなったのが人気の理由。「やっと探し当てた」という人がほとんどで、年代はさまざま。関西や九州など全国からの申し込みがあり、東京のテレビ局から「ドラマの小道具に使いたい」との問い合わせもあった。



「時代遅れグッズ」が並ぶ大迫商工会のレトロモール(HP)

このほかにも、灯油ランプ(1万8,500円)、カヤで編んだみの(1万5,000円)、わらじ(850円)、金だらい(1,800円から)、かまどでご飯を炊くつば釜(3,600円から)など、懐かしの商品ばかりを取りそろえた。

商品はすべて同町大迫の川原町商店街にある創業195年の雑貨店山田商店で販売中。最近では、HPを見て同店を訪れる客も増えたという。

5代目店主の山田耕司さんは「インターネットの力はすごい。驚いたよ。若い人はもの珍しくて、年寄りには懐かしく思うんでしょう。「時代遅れ」で街にも活気を取り戻せたら嬉しい」と笑顔で話している。

HPアドレスは、[www.shokokai.com/oohasama/](http://www.shokokai.com/oohasama/)

## 愛媛県 野村町商工会 陳列棚で自分のお店を 小箱ショップ、オープン

野村(のむら)町の商店街に、希望者が陳列棚の区画を借りて物品を販売する小箱ショップ「繭玉」(まゆだま)がこのほどオープンした。ギャラリーと買物客の休憩所もあり、商店街活性化の起爆剤として期待されている。



このショップでは、野村町商工会TMO(タウン・マネジメント機関)が4月から計画。2階建て空き店舗の1階約60m<sup>2</sup>に、30区画の陳列棚と無料開放ギャラリー・休憩所を設けている。月額1,500~3,000円で貸し出した棚の区画はすでにほとんど埋まり、町民らが手作り小物や陶器、絵画などを販売している。

ギャラリーでは、町シルク博物館の草木染め教室生作品を8月20日まで展示し、25日からは地元写真店が「赤ちゃん写真展」を開催した。

商工会スタッフは「町が近くに建設する多目的会館の利用客を商店街に導くのもねらい。可能性を秘めた繭のようなスポットとして、買物客に気軽に立ち寄って楽しんでもらいたい」と語っている。

営業は午前11時~午後6時、日曜休み。陳列棚、ギャラリーは町外者も利用可。

## 栃木県 桑絹商工会 あい染めなどで地域交流図ろう

桑絹(くわきぬ)商工会主催の「第3回夏やすみ夏あそび」が8月23日、梁小学校校庭などで開かれた。桑絹地区の小学生を中心に、自然あふれる地域で、あい染めなどの技術を通して交流を深め、地域の活性化を図るのが狙い。



「夏やすみ夏あそび」の今年のポスターに選ばれた小林君(左)と当商工会の終青年部長

当日は同校前の用水堀で、アルミ缶10個で魚釣りなどが無料体験でき、校庭であい染めハンカチ作り、木工工作などを楽しんだ。また、おやま和牛の試食コーナーなども設けられた。

昨年実施した際の思い出の絵コンテストで最優秀賞に選ばれた北飯田の小林義裕君の作品が、今年の「夏やすみ夏あそび」の宣伝ポスターに採用され、完成したポスターは当商工会の終一也青年部長が小林君に手渡した。

## 茨城県 鹿嶋市大野商工会 「かしまフレッシュ音頭」完成 名所・名産盛り込み、盆踊りの定番に

鹿嶋市民に親しまれる盆踊りの曲づくりを進めていた鹿嶋市大野(かしましおおの)商工会(飛田高次会長)は、市内の名所や特産品を歌詞に盛り込んだ「かしまフレッシュ音頭」を完成させ、8月14日、同市角折の潮騒はまなす公園内で「かしまふるさと祭り」のメインイベントの1つとして開かれた盆踊り大会で披露した。

同音頭は、友部町の長山たかのりさんが作詞、潮来市の山口正光さんが作曲を担当。CRS企画所属の歌手で神栖町の木内静香さんが歌い、舞島流宗家で東町の舞島正之輔さんが踊りを振り付けた。いずれも、同商工会の呼びかけにボランティアで応じた。

歌詞は、鹿島神宮や県立カシマサッカースタジアム、鹿島港など同市や鹿島地域の名所のほか、同神宮の祭り、特産品のメロンも登場する。踊りの振り付けは、サッカーのヘディングやキック

の動作が取り入れられるなど、歌、踊りともに鹿嶋をイメージさせる内容になっている。

踊りは、同商工会女性部や同市大野地域女性団体連絡会、はまなす太鼓のほか、同市大野地区の踊りのグループなどが練習を重ねており、盆踊り大会で参加者に指導する。



女性部のメンバーによる音頭の披露

商工会では8月7日、音頭制作に携わった4人に感謝状を贈呈。音頭の完成を祝い、同女性部のメンバーら約10人が浴衣姿でできたての踊りを披露した。

飛田会長は音頭のでき栄えを喜びながら、「市内のイベントなどで末永く親しまれる音頭になるよう期待している」と、市内盆踊り大会の定番とするよう普及に取り組む方針。

# 情報